

実践報告

学生チューターを導入した情報モラル教育の実践

角 和博* ・ 陣内 誠** ・ 挽地 貞仁***
古川 卓**** ・ 古賀 萌子***** ・ 矢野 滉*****
納所 健三***** ・ 浴本 信子*****

Educational Practice of Information Ethics Introducing Student Tutors

Kazuhiro SUMI*, Makoto JINNAI**, Sadato HIKICHI***,
Takashi FURUKAWA****, Moeko KOGA*****, Takeshi YANO*****,
Kenzo NOUSHO***** and Nobuko EKIMOTO*****

【要約】

インターネットの普及とともに進むネット社会に対応できる子どもたちの育成を目指して、平成26年1月17日に小城市教育委員会と特定非営利団体ITサポートさがの間で情報モラル教育に関する協定が締結された。本報告は、それに基づいて計画され、実施された事業の中から、特に学生チューターを導入した情報モラル教育の実践について取り上げる。

【キーワード】

インターネット, 移動携帯機器, 情報モラル教育, 学生チューター, 実践授業

1. はじめに

近年、インターネット接続可能な移動携帯やゲーム機の急速な普及によって、生活の中で人々が情報を交換できる場面が増えてきた一方で、子どもたちがネット犯罪に巻き込まれる事件も急増している。

テクノロジーは、楽観的に捉えれば人間の生活を便利で快適にし、人間の様々な欲望を満足させる社会に有益なものであると考えられる。一方で悲観的な見方をすれば人間のもつ自由な精神活動を束縛するものと見なされる。テクノロジーは、人間の制作という行為から生み出されたものであり、人間が活用するものである。これらの人間の実践的行為には、必ず倫理的な基盤が伴わなければならない。この基盤とは、思慮とか考慮と呼ばれるものである。この行為の前提は相手を思いやる態度であり、広い意味で哺乳動物には備わっているものとも言われている。人間の実践的行為は、必ず倫理的な基盤の上に形成されなければならない。この基本原則は、特にテクノロジーの制作や活用の場面には、不可欠のものである。

佐賀県教育委員会は、学力向上をめざしてICTの利活用を推進する方針を打ち出し、全国に先駆けて平成26年度4月から県内のすべての公立高等学校1年生にPCタブレットの携帯を実施している。その意味でICT教育の先進県である佐賀は、教育の情報化に関心を持つ人々の注目を集めている。

パソコンや携帯電話などICT（情報通信技術）機器の活用法や、使用する場合のルールやマナーを中学生に指導し、小中学校で実施するICT教育の指導案を共同でつくる。

平成26年1月17日に小城市教育委員会と特定非営利団体ITサポートさが（以下ITサポートさが）とは「情報モラル教育に関する協定」を結んだ。佐賀新聞の記事には、その目的を「インターネット端末が

普及する一方、小中学生が犯罪に巻き込まれたり、ネット依存に陥る恐れもあることから、情報モラルの向上を図ろうと協定を締結した。」と記述されている。

本報告は、その中で、まず大学生が小学校や中学校で普及活動を行い、やがて子どもたち自身が自分たちで実施できるような情報モラル学習をめざして、具体的に計画され、実施されている学生チューター事業について取り上げる。

2. 実践方法

平成26年度からの学生チューターによる情報モラル学習の実施に向けて、小城市教育委員会とITサポートさは、毎週金曜日19時からのITサポートさの例会で日程調整や学習内容の検討を行った。表1は、決定した小城市の平成26年度小中学校情報モラル学習の年間計画である。

また、チューター活動を行う学生たちは、事業実施のための検討会を行い、実施する学校毎に、表2または表3に示すような学習指導案を作成した。

表1 平成26年度小中学校 情報モラル学習 年間計画（小城市教育委員会学校教育課）

学校名	日 時	場 所
晴田小学校	9月26日（金）14：00（13：30）	2F多目的室
牛津小学校	10月2日（木）9：35	2F多目的室
岩松小学校	10月10日（金）9：35（9：00）	2Fパソコン室
桜岡小学校	10月14日（火）15：00（14：30）	2F多目的室
芦刈小学校	10月24日（金）10：40（10：00）	メディアセンター
三日月小学校	11月6日（木）14：00（13：30）	2F多目的室
三日月中学校	12月19日（金）14：00（13：30）	各教室
砥川小学校	1月22日（木）	未定
三里小学校	1月28日（木）	未定
小城中学校	2月10日（火）	未定
芦刈中学校	2月18日（水）	未定
牛津中学校	2月25日（水）	未定

(1) 小学校の情報モラル学習指導案

平成26年度の初めの学生チューター活用事業として、平成26年9月26日に晴田小学校で学生チューターによる情報モラル授業を行った。表2は、チューター学生が作成した小学校用の情報モラル学習指導案である。対象は、小学5年生、題材は、「情報モラル啓発ポスターを作ろう」、目標は、「ネット社会にはいろいろな問題があることを身近に知る。」で小目標として「自分が伝えたいこと、友だちが伝えようとすることを知る。」「情報モラルを身に付けるための近道は、コミュニケーション力を高めることを知る。」を含んでいる。

表2 小学校の情報モラル学習指導案

	学習活動	学生チューターの働きかけ 学級担任のサポートと評価	準備等
導入	1. あいさつ 2. 自己紹介 (交代) 3. めあてをもつ 4. 最新的话题を提供	(担) 全体のあいさつを促す。 (担) これからの授業内容を伝え、学生チューターの自己紹介につなげる。 (チ) 1人ずつ自己紹介をする。 授業のながれとめあてを確認して板書する。 『安全な情報社会のために、ポスターをつくろう』 鉛筆とボードを持ってきているか確認する。 スマホの利用・体験した人数、ゲーム機の保有人数を確認して、スマホとゲーム機の共通性を発表させる。 良いところ、悪いところ・熱中する、周りが見えない社会現象「ながらスマホ」の危険性を知る。 ドコモ作成の動画を紹介して見せる。【You Tube】 終盤に一時停止して、結果を予測させて発表させる グループ作りを促し、いろいろな問題を出し合わせる。	鉛筆 ボード
展開	○グループを作る (4~5人) 5. グループ内で意見を出し合う	グループを回って質問を受ける。発問する。 TPCを配って、みんなでポスターを見て問題や危険性について深め、気づきを与える。 【ITサポートさがHP・ポスターコンクール・ツール別】 画用紙を配り、名前を書くように促す。 まず自分の題材を決めさせる(気になるもの、伝えたいこと)	IWB
まとめ	6. ポスター作り 7. グループ内で発表 8. 代表者の発表 (交代) 9. 感想を発表、あいさつ	えんぴつでラフをかく(キャッチコピー、構図) (10分前)ポスター作りを中断し、グループ発表に移る。 一人ずつ自分のポスターを紹介する。 「伝えたいこと(題材)」「それを選んだ理由」 グループの代表作を決めて、全体発表につなげる。 学生チューターが1人ずつコメントしてから学級担任に交代する。 (担) 授業全体を振り替える。ポスター完成までの指導とコンクール出品を知らせる。(小学生の部・親子協働の部) 代表者に感想を発表させて、謝辞・拍手。終了のあいさつ	TPC

(2) 中学校の情報モラル学習指導案

平成26年12月19日に三日月中学校で7回目の学生チューターによる情報モラル授業を行った。題材は「情報モラル啓発標語を作ろう」であり、対象は中学2年生である。目標として「小学生にスマートフォンの危険性を伝える標語を作ることができる。」「自分自身の使い方を見直しながら意見を出し合い、他の人の意見を共有することができる。」「危険性を理解したうえでスマートフォンを活用していくことの大切さを知ることができる。」の以上三つを掲げた。表3は、チューター学生が作成した中学校用の情報モラル学習指導案である。

表3 中学校の情報モラル学習指導案

	学習活動	学生チューターの働きかけ 学級担任のサポートと評価	準備等
導 入	1. クラスメイトのインターネットの利用状況を把握する。	・事前アンケートの結果を伝え、自分達の現状について把握させる。	
展 開	2. インターネットを利用する際の危険性・問題点について知る。 3. テーマを考え、スマホ利用時の危険性について考える。 4. 調べた内容を踏まえて、標語を作成し、発表準備をする。 5. 完成した標語を発表する。	・イラストや写真を用いて、「歩きスマホ」や「ネットいじめ」などのキーワードを生徒から引き出す。 ・身近で便利なツールには様々な危険が潜んでいることに気付かせる。 ・グループになり、実体験や日頃思っていることを話し合ったり、タブレットPCを使って調べたりすることで、どのようなところに危険性が潜んでいるかについて考えさせながら、テーマを作成する。 ・テーマがうまく決まらないところはチューター側からキーワードを提示する。 ・タブレットPCを用いて調べ物をする際に、ネット上にある標語を盗用しないことを約束させる(著作権があることを展開3の前に確認しておく)。標語の形にするのが難しそうであれば、ポスターのキャッチコピーを作るイメージを持たせる。 ・グループごとに代表者が「テーマ」「作成した標語」「テーマ決定の理由」「標語に込めた思い等」を発表する。	IWB 学習者用PC OneNote (画用紙) OneNote IWB
ま と め	6. 本時の振り返りをする。	・危険性を理解した上で、スマートフォンを活用していくことの大切さを伝える。	

3. 実践結果

(1) 小学校での実践結果

授業は、学生チューターの文化教育学部4年生の古川卓と2年生の矢野滉が担当した。5年生の児童は担任の指示で集まった。最初に校長先生の挨拶があり、この授業の目的が説明された。この間に小学校に配属されたIT支援員によってPCタブレットタブレットが児童に配布され、電子黒板との接続等の確認がなされた。

授業は古川学生が準備していたパワーポイントを電子黒板に映し出しながら行われた。後半では、ITサポートさかのWebサイトにある全・安心ポスターコンクールの作品集を児童が班ごとに閲覧しながら、ネットの安全・安心を守るポスターの作成に移った。授業内ではキャッチコピーを決めることに重点を置き、グループ発表の際には選んだ題材(伝えたいこと)と、その理由を述べさせた。



図1 晴田小学校授業風景1



図2 晴田小学校授業風景2

(2) 中学校での実践結果

授業は、学生チューターの古川学生と同じく文化教育学部3年生の古賀萌子が担当し、各教室で行った。中学生版では、標語作りの中でもテーマ決め重点を置いて授業を進めた。あらかじめ担任の先生方を取っていただいていた、実態調査アンケートの集計結果発表や、写真やイラストを用いての「歩きスマホ」、「ネットいじめ」などの実態紹介を通して、危険性や問題点を把握させ、テーマ決めの参考とさせた。

生徒たちは班ごとにテーマを決め、そのテーマに関する自身の考えや標語に入れる言葉の案を盛んに出し合っていた。うまく決められずに悩んでいる班には学生チューターが入り、大学生の実態（スマートフォンの画面を見ながらの会話）を紹介するなどのアドバイスをすると、それを基にして標語作成に移ることができていた。中には「小学生に向けて」ということを強く意識している班もあり、わかりやすい言葉に置き換える姿が印象的であった。



図3 三日月中学校授業風景

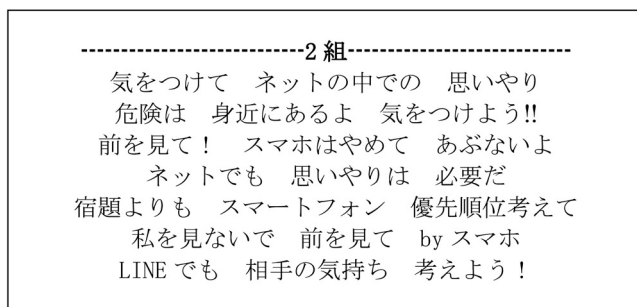


図4 完成した標語の一例

4. 考察と今後の展望

小学校では、子どもたちに正しい情報モラルの知識を物語風の語り口で分かり易い具体的な事例を挙げながら解説するとよいと思われる。できれば役割分担をした子ども劇がよい。子どもたちの心は、犯罪や被害に関する内容を難しい言葉や恐ろしい言葉や写真などで提示されると縮こまってしまう。そのため必要なモラルに関する内容に理解することができなくなってしまう。今回の小学校の実践は、ポスター制作であったが、45分の実践では、導入のポスターに表す言葉を考えるところまでであった。この後に教室に戻り、また家庭に持ち帰ってポスターは完成した。その後の子どもたちの感想は、ITサポートさがが毎年佐賀県全域を対象に行っているネットの安全・安心ポスターコンクールで入選した数多く

の作品を鑑賞し、参考になったこと、自宅で家族と相談しながら制作したことなどが書かれていた。

中学校では、今回標語という、ポスター制作よりもステップが少ないものであったためか、45分の授業の中で充実した作品が多く輩出した。情報モラルについてクラスの仲間たちと班ごとに集中的に悩んだり考えたり、意見を出し合うことで様々な問題点について考えるきっかけとなったものと思われる。

これからも急速に増加すると予想されるネット依存やネット犯罪に対して、子どもたち自身が情報モラルの重要性を交通安全や火災予防と同様に社会生活を送る上で重要な事柄であることを自覚してもらいたい。そのためにもこの活動が小学校と中学校を通して定期的に行われること、特別活動の時間や各教科の時間においても、先生方によって、また、子どもたち自らによる活動になっていくことを願っている。

【参考文献】

1. 文部科学省：教育の情報化に関する手引，開隆堂出版，2011
2. 土井 隆義：つながりを煽られる子どもたち-ネット依存といじめ問題を考える（岩波ブックレット），岩波書店，2014
3. 樋口進：ネット依存症（PHP新書），PHP研究所，2013
4. 遠藤 美季・墨岡 孝：ネット依存から子どもを救え，光文社，2014
5. 岡田 尊司：インターネット・ゲーム依存症 ネットゲからスマホまで（文春新書），文藝春秋，2014
6. 遠藤 美季・坂本 ロクタク：家庭でマスター！中学生のスマホ免許：依存・いじめ・炎上・犯罪… SNSのトラブルを防ぐ新・必修スキル，誠文堂新光社，2014
7. フランス・ドゥ・ヴァール：「動物に見られる道徳的な行動」，NHK スーパープレゼンテーション，<http://www.nhk.or.jp/superpresentation/backnumber/140113.html>
8. 佐賀県教育委員会：ICT利活用教育のホームページ，https://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1018/ik-ict.html
9. 瀬戸健太郎：「情報モラル指導案作成へ 小城市教委，NPOと協定」，佐賀新聞2014年01月19日記事，[http://db.saga-s.co.jp/article.php?filename=2014/01/19/055_05.html&key\]=ITサポートさが，C&sort_order=descending&search_year\[\]=2014&page_size=10](http://db.saga-s.co.jp/article.php?filename=2014/01/19/055_05.html&key]=ITサポートさが，C&sort_order=descending&search_year[]=2014&page_size=10)，佐賀新聞LIVE